

# GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 31 週  
(7/28~8/3)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

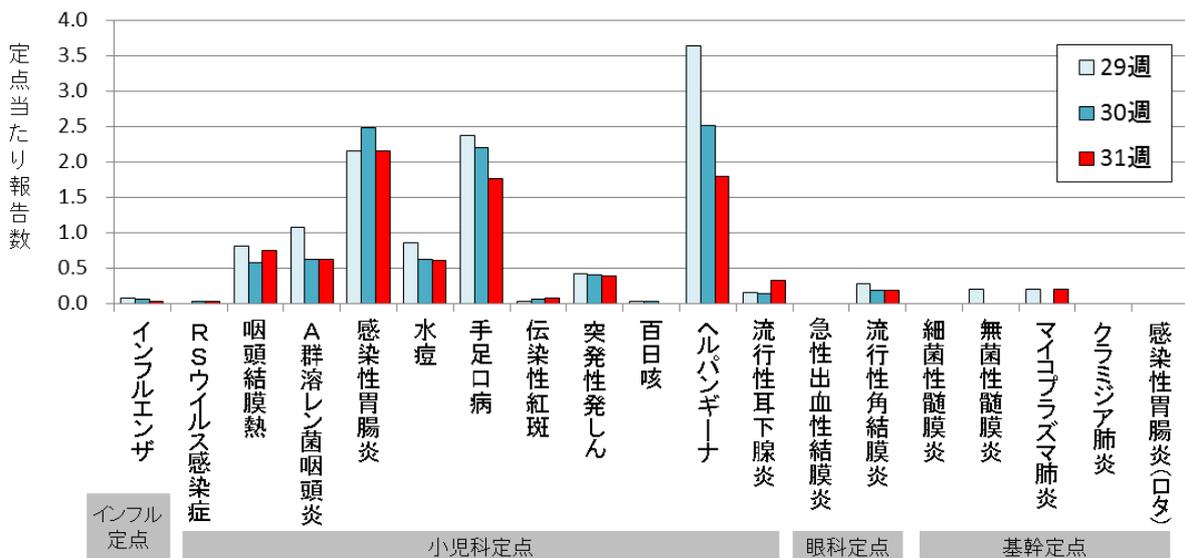
- ◇ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。→トピックス
- ◇ ヘルパンギーナと手足口病はピークを過ぎましたが、岐阜地区で流行が続いているほか、東濃保健所管内でヘルパンギーナが増加傾向です。
- ◇ 咽頭結膜熱が恵那保健所管内で増加しています。

## ■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:86 か所、小児科定点:52 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

### ● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	咽頭結膜熱	恵那保健所（3.25）
	手足口病	岐阜保健所（3.80）
	ヘルパンギーナ	岐阜市保健所（2.22）、岐阜保健所（2.90）
注意報レベル	なし	—

### ● 直近 3 週の比較 ・初夏～夏に流行する疾患は、全体的に減少傾向です。



## ■ 全数把握対象疾患

### ● 今週届出分

1 類感染症：なし

2 類感染症：結核 12 例

3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6 例（O157：6 例）

4 類感染症：なし

5 類感染症：アメーバ赤痢 1 例、後天性免疫不全症候群 1 例（AIDS）

### ● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	242 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	25 例	
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 3 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 12 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	10 例	侵襲性肺炎球菌感染症 15 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 6 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	11 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	麻しん 2 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

## ■トピックス

### 《腸管出血性大腸菌感染症》

#### ◆ 県内で患者の報告が増加しています。

第31週は腸管出血性大腸菌感染症患者が6例報告され、夏期に入り報告数が増加しています。今年の累計報告数は25例となり、昨年同時期（27例）とほぼ同じ数となっています。

第31週には、県内の飲食店で腸管出血性大腸菌O157による食中毒の発生もありました。

この時期は、食中毒・人からの感染ともに注意が必要です。

#### ◆ 食中毒を防ぎましょう。

食肉の生食により、腸管出血性大腸菌に感染することがあります。調理の際は、食肉は内部まで十分に加熱（75℃、1分間以上）しましょう。また、焼き肉店やバーベキューでは、生肉専用の箸またはトングを使用するとともに、生焼けの肉を食べることのないように注意しましょう。

家庭内に幼児や高齢者など抵抗力の弱い方がいる場合は、生や加熱不足の肉を食べさせることのないよう、特に注意しましょう。

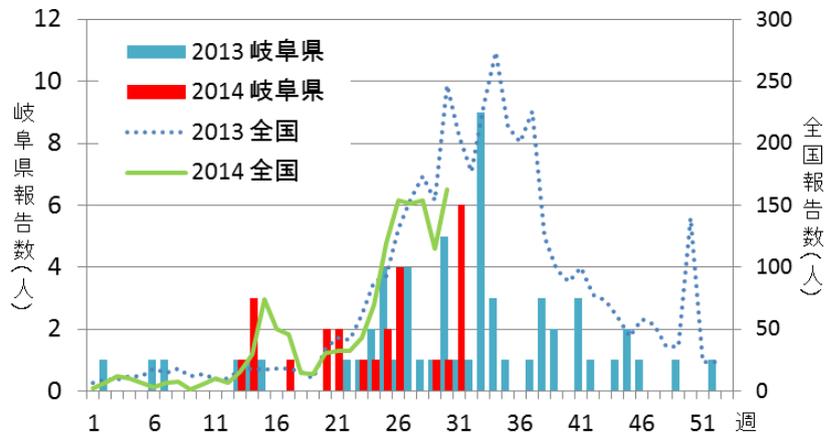
#### ◆ 保育所などでは集団感染に注意しましょう。

腸管出血性大腸菌は、便を介して人から人へ感染します（糞口感染）。夏場は保育所や幼稚園など、乳幼児の集団生活の場で集団感染が起こりやすいので注意が必要です。

県内の過去の集団感染事例をみても、その多くは保育所や幼稚園、託児所などで起きています。おむつ交換や幼児の用便時の汚染、プールや子ども同士の接触などによる感染拡大が考えられます。用便後や食事前の手洗い、おむつの適切な取扱いなど、日常的な感染予防対策を改めて徹底し、集団感染を予防しましょう。

また、乳幼児の場合、家庭内でも同様に感染が拡大しやすいため注意しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症患者週別報告数



腸管出血性大腸菌感染症 血清型別報告数（岐阜県）

※2014年は31週まで

血清型/年	2010	2011	2012	2013	2014※
年計	46	85	64	57	25
O157	37	41	34	32	17
O26	5	39	8	18	3
O111	-	-	19	-	1
O103	2	2	1	1	-
O121	-	-	1	2	4
その他・不明	2	3	1	4	-

腸管出血性大腸菌 県内食中毒事例  
(2002～2013年)

発生年月	原因施設	原因菌血清型	患者数※
2014年8月	飲食店	O157	2
2008年5月	飲食店	O157	13
2008年10月	飲食店	O157	3
2008年10月	飲食店	O157	3
2005年7月	飲食店	O157	30

※菌検出・不検出にかかわらず、摂食者のうちの有症者数

腸管出血性大腸菌 県内集団感染事例  
(2000～2013年)

発生年月	発生場所	原因菌血清型	患者（菌陽性者）数
2013年7月	幼稚園	O26	6
2012年7月	託児所	O111	17
2011年7月	保育所	O26	18
2011年9月	幼稚園	O157	12
2006年7月	保育所	O26	50
2003年5月	短大寮	O157	15
2003年6月	保育所	O157	43

### 感染症法における取扱い

腸管出血性大腸菌感染症は、感染症法において3類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は直ちに保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouho-u-kijun.html> (保健医療課 HP)

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>